

他都市等での取組事例

基本的な3つの考え方について、他都市での取組事例を参考に、具体的な施策を検討する。

① 地域での連携、協働によるリデュース、リユース（2R）の推進

■ みどりの自転車（長野市）



【実施主体】市民団体「NASL地球環境フォーラム」

【概要】乗降場「グリーンステーション（GS）」に置いてある市民共有の自転車「みどりの自転車」が誰でも無料で自由に使え、使い終わった自転車は最寄りのGSに返しておくという仕組み。当初2ヵ所のGS、10台の自転車で始められたが、現在GS8ヵ所、自転車は56台が増え、市民から使わなくなった自転車を提供したいという申し出も次々によせられている。

【実績・課題】駅前に放置される自転車が何台かあったり、盗まれたりするケースも数件あるが、今後もこの運動を前向きに進めていく予定。

■ エコ・コンビニ みやこスタイル（京都市）



【実施主体】京都2Rシステムプロジェクト、市

【概要】平成21年6月23日から概ね3箇月間、市役所内のスペースにエコ・コンビニをオープンさせて社会実験を行う。全国初、コンビニ業界初となるマイボトル、マイバッグ、マイ箸といった環境にやさしい画期的な取組を進めるほか、LED照明や天然ガス配送車の使用等の温暖化対策、省エネ対策を徹底的に行う。また、障害のある方の就労の場、総合支援学校の実習の場として活用する。

② 地域の特性を生かしたリサイクルの仕組みづくり

■ 学校を拠点とした生ごみリサイクルの仕組みづくり（東京都足立区）



【実施主体】区内の小学校、NPO団体

【概要】週に1回、登校時に自分の家から生ごみを持参してもらい、業務用生ごみ処理機で肥料原料にし、生ごみを持参した子供にはポイントを与える（スタンプカード利用）。年3回開催される野菜交換会で、リサイクル肥料で育てた野菜を、集めたポイント数に応じて交換。

【実績・課題】2008年度時点で4校が実施。

■ 市民が管理主体となってリサイクルステーションを管理（岐阜県多治見市）



【実施主体】市民

【概要】それまでの6分別から23分別に変更し、約460箇所のリサイクルステーションを設置。当番制で市民が管理（立ち番）。

【実績・課題】立ち番という市民が力を発揮できる場ができたことで、市政における満足度がアップした。

■ 24時間排出できる資源回収ボックスの設置（山梨県富士吉田市）



【実施主体】市が委託した民間の管理者

【概要】祝祭日を含め、民間の管理者が常駐して、市民からの資源物を受け入れ。また、業務用生ごみ処理機を設置し、希望者から生ごみを受入れ、堆肥化し、堆肥を無料配布している。

【実績・課題】リサイクル率が2001年度の11.3%から、2005年度は16.9%へ上昇。

■ 初島デポジットシステム（静岡県熱海市）

【実施主体】市



【概要】対象となる飲料缶に10円を上乗せして販売し、島内に設置されている空き缶回収機で空き缶と引き換えに返金。初島における空き缶の散乱防止、再資源化の促進を目的として実施。

【実績・課題】島内での販売個数に対する回収率は、2006年度は39%になった。現在空き缶回収機は、島内3箇所に設置しており、空き缶が散らかっていた状況の改善に効果があった。

■ 集団回収を発展させた各戸回収の実施（仙台市）

【実施主体】市民



【概要】集団回収の際に、「各戸回収（子ども会など実施団体が対象地域内の自宅を訪問回収）」と「ステーション回収（実施団体が指定したごみ集積所などに対象地域の住民が直接持ち込み）」を併用。

【実績・課題】集団回収の実施団体が少子高齢化で体力が弱くなっていることもあり、月1回の回収頻度を保てなくなっている地域が出てきている。

■ 学校から排出される古紙の回収システムの構築（大阪市）



【実施主体】NPO 法人グリーンコンシューマー大阪ネットワーク、古紙回収業者

【概要】「紙ごみ『もったいないやんか』プロジェクト」として、同NPOが大阪市内の校長会に参加し、紙資源の有効利用を呼びかけたのがきっかけ。新聞・雑誌・書類、段ボール、シュレッダーごみなどを対象。

【各者の役割】NPO 法人グリーンコンシューマー大阪ネットワークが学校への要請活動を、古紙回収業者が回収を担当。

【実績・課題】2006年10月で94校が参加し、2006年度は94,155kgを回収。個人情報の問題から、機密書類を段ボールに入れた状態で引き取り、即日溶解処理することも検討している。

③ 環境負荷や経済性に配慮したエネルギー回収と適正処理システムの構築

■ 廚芥類の分別収集モデル実験（千葉市）

【実施主体】市



【概要】市内的一部地域（約2,600世帯）を対象に、厨芥類の分別収集を行い、民間施設で、バイオガス化を行う。生成されたバイオガスは、製鉄所で使用する他、残さは、ガス化溶融施設で、スラグ化して資源化される。

【実績・課題】収集量184.1トン(平成19年11月～平成21年5月)。

今後はモデル実験を拡大し、今後の全市実施に向けた方向性を検討する。

■ 薬局による使用済み注射針の拠点回収（東京都）

【実施主体】社団法人東京都薬剤師会及び実施地域各薬剤師会支部



【概要】在宅医療廃棄物のうち、在宅患者が薬局から購入し、使用済みとなった注射針を回収薬局の看板を掲げる薬局で店頭回収する。改修された注射針は、医薬品管理センターに集められ産廃処理される。（回収容器などに係る経費を、都及び各区により一部補助）

【実績・課題】回収容器数 約6万ケース

■ 小型電子機器の拠点回収実験（北九州市）

【実施主体】北九州市とソニー(株)による協働



【概要】不要となった小型電子機器（全メーカーのデジタルカメラ、携帯型音楽プレーヤー、携帯型DVDプレーヤーなど）を、北九州市内のホームセンターやスーパーマーケット、小学校など74カ所に設置した回収ボックスで回収し、レアメタルなどの金属材料として再資源化する。市は、助成金や市民PRなどについて協力している。